

# 令和7年度 出前講座一覧<住宅・建築>

No	講座名・講座内容	講師所属・役職	講師名	講座時間	講座対象									出前範囲	WEB対応	ご準備いただきたい機材
					小学生 低学年	小学生 中学年	小学生 高学年	中学生	高校生	大学生	社会人	その他				
3	<b>国総研の仕事</b> 国土技術政策総合研究所(国総研)では、社会や経済活動、国民の生活を支える基盤となる施設や設備(上下水道、河川、道路、建築・住宅等)であるインフラ(インフラストラクチャー)に関する研究を行っています。インフラにはどのような役割があり、どのような研究を行っているかを紹介します。キャリア学習として、他の研究所などと連携した紹介も可能です。	企画部 主任研究官	濱田 悠貴 長屋 和宏	45～50分(ご要望に応じて調整します)	○	○	○	○	○	○			全国	○	パソコン用プロジェクタ	
27	<b>建築物における音環境性能の現状と課題</b> 特に集合住宅では隣や上階からの騒音(音環境性能)が問題となることが多くなっています。そこで、音環境性能に関する現状、基準や設計指針、対策手法等の現状や課題について紹介します。	建築研究部 設備基準研究室 主任研究官	平川 侑									○	全国	○	パソコン用プロジェクタ	
28	<b>今日からやろう！お家や学校でできるエコアクション</b> 住宅やビル(事務所や学校等)では、エアコンや照明等により沢山のエネルギーが使われています。しかし、日々の生活において、何にどの程度のエネルギーが使われているかを意識することはあまりありません。この講義では、そもそもエネルギーとは何でどこから来ているのか、実際の住宅やビルにおいて何がエネルギーを使っているのか、省エネルギー化(エコアクション)のためには何をすればよいのかをクイズ形式(小学校低学年向け)・実験形式(小学校高学年以上向け)で学びます。	住宅研究部 住宅ストック高度化研究室 室長	宮田 征門	45分～120分	○	○	○	○	○	○	○	一般市民	全国	○	パソコン用プロジェクタ	
29	<b>建て替えられない状況を改善する ～まちづくり誘導手法による密集市街地整備～</b> 密集市街地の街区内部(アン)は狭隘道路と狭小敷地で構成されているため、建築物を建て替えようとする建築基準法の集団規定(接道義務、道路斜線制限、建ぺい率制限等)に適合させることが困難な場合が多く見られ、結果的に建て替えが進みにくいケースも見受けられます。しかし、街並み誘導型地区計画、建ぺい率特例許可、連担建築物設計制度等の各種のまちづくり誘導手法を活用した建築物の建て替え誘導、促進に取り組み、地区の防災性向上に効果を上げている例があります。本講座では、密集市街地において、まちづくり誘導手法を活用して建て替えを促進する方法について、具体事例を交えつつ紹介します。	都市研究部長	勝又 済									行政関係者	全国	○	パソコン用プロジェクタ 参考資料:国総研資料 No.1076『密集市街地整備のための集団規定の運用ガイドブック ～まちづくり誘導手法を用いた建替え促進のために～【令和元年6月改定版】』 (国総研HP <a href="https://www.nilim.go.jp/lab/bcg/siryou/tnn/tnn1076.htm">https://www.nilim.go.jp/lab/bcg/siryou/tnn/tnn1076.htm</a> からダウンロード可)	
30	<b>密集市街地のまちづくり</b> 我が国には地震時等に著しく危険な密集市街地が全国で約2,200ha(令和2年)存在し、これらを令和12年に概ね解消することが新たな「住生活基本計画(全国計画)」(令和3年3月19日閣議決定)の目標に掲げられています。本講座では、密集市街地は何か問題なのか、どのような地域に分布しているのか、どのような特徴があるのか等、密集市街地の実態について解説するとともに、問題を解決するためのまちづくり方策について、実際の取り組み事例を交えつつ紹介します。	都市研究部長	勝又 済							○	○	一般市民	全国	○	パソコン用プロジェクタ	
31	<b>交通ビッグデータ等の新技術を活用した、都市のコンパクト化・ウェルビーイング向上に向けた取り組みの考え方</b> 携帯電話基地局データなどの信頼性の高い「交通ビッグデータ」の活用により、都市における人の流動が高度に把握・予測できるようになってきており、また一方で、自動運転などの新技術により、持続可能な全く新しいモビリティネットワークが計画・構築できようになってきているなど、多様なニーズを踏まえた暮らしやすい都市づくりに貢献するツール環境が近年急速に整ってきています。そこで、これらの要素技術の可能性とあわせ、持続可能な都市のコンパクト化・ウェルビーイング向上に向けた取り組みの方向性についてご紹介します。	都市研究部 都市施設研究室 室長	新階 寛恭						○	○	○	行政関係者 民間技術者	関東周辺	○	パソコン用プロジェクタまたは大型モニター(できればHDMI接続)、レーザーポインタ	
32	<b>統計データと地図でみる都市構造の変遷</b> 人口減少期において財政制約や環境負荷制約が高まる中、持続可能な都市の形態の1つとして集約型都市構造への転換が求められています。自分たちが暮らす街がどのような構造なのか、国勢調査による人口の分布や商業統計による販売額の分布などの各種統計データと地図を使って1970年代から現在までの変遷を紹介します。	都市研究部 都市計画研究室 室長	石井 儀光						○	○	○		全国	○	パソコン用プロジェクタ	
33	<b>携帯型情報端末を使った応急危険度判定支援</b> 地震後の二次被害を軽減するため、応急危険度判定は重要な役割を担っています。大規模地震後の判定活動において調査表入力を支援するための「応急危険度判定支援ツール」の使用方法和、判定結果を迅速に集計・地図化する方法を紹介します。	都市研究部 都市計画研究室 室長	石井 儀光									行政関係者 建築士	全国	○	パソコン用プロジェクタ	

No	講座名・講座内容	講師所属・役職	講師名	講座時間	講座対象								出前範囲	WEB対応	ご準備いただきたい機材	
					小学生 低学年	小学生 中学年	小学生 高学年	中学生	高校生	大学生	社会人	その他				
35	<p><u>住まいとまちの水害対策</u></p> <p>近年の水害の頻発化・激甚化などから「流域治水」への政策転換が図られ、河川施設や下水道施設の整備などの対策に加えて、浸水リスクの高い地域での住まい方の工夫や建築・土地利用の規制・誘導などの、建築・都市分野での対策が重要な役割を担いつつあります。このような住まいとまちの水害対策への社会的要請が高まっている状況の背景や考え方、実施されている様々な取組み、今後に向けた課題などについて紹介いたします。</p>	<p>都市研究部 都市防災研究室 研究官／国総研シニアフェロー</p>	木内 望									○	一般市民 行政関係者 建築関係者 など	全国	○	パソコン用プロジェクタ
44	<p><u>都市空間の魅力の増進(居心地の向上や活気・賑わいの創出)</u></p> <p>都市のサステナビリティや地方創生・都市再生・中心市街地活性化等のために、都市空間の魅力を増進(居心地の向上や活気・賑わいの創出)することへの注目が高まり、「居心地が良く歩きたくなる」まちなかづくり～ウォーカブルなまちなかの形成～」等の取り組みが広がってきています。オープンスペースの居心地の向上や活気・賑わいの創出、補助金に依存しない自律的継続的な民間主導まちづくり活動の支援の仕方、歩行空間の「利用」と「利用を前提としたデザイン」、デザインと事業性の両立などに関する基礎的な考え方について、「十二表法」(紀元前450年頃)から現代まで約2500年間の主要文献をレビューし、国土交通省・UR都市機構・実務者・建築学会・大学・大学院デザイン専攻者等への講義等を行ない、国土交通省「プレイスメイキング・シンポジウム2014」「ストリートデザインガイドライン(2020年3月)」等を政策企画立案・技術支援した担当者をご紹介します。</p> <p>初学者向け(90分程度、WEB開催可)には筆者レポートを用いるほか、都市デザインに係る行政関係者や社会実験を行なう都市計画コンサルタント等向け(1.5～2.0日、対面)にはプレイスメイキング・景観工学等を社会実装するための基礎的事項に係る座学・実技指導、大学・大学院のデザイン専攻者向け(1コマ程度、対面)には、ウィトル＝ウィウス『建築書』(紀元前30年頃)以降のパオニアのデザイン関連主要文献・論文(芦原義信、ヤン・ゲール、北原理雄、クリストファー・アレグザンダー、イアン・ペントレイ、佐藤圭二、渡和由、鈴木俊治、デビッド・シム、島原万丈など)、英国・NYCのデザインガイドライン等を課題図書とし、実際の記述を確認しながら、具体的な形質・寸法、社会実装の事例、経済効果等について学び、実務に携わるための総合的視点を養います。</p>	<p>社会資本マネジメント研究センター 建設経済・環境研究室 室長</p>	富田 興二								○	○	パブリックスペース・パブリックライフ関係者 都市デザイン関係者 行政関係者・研究者・教育者・出版関係者 大学・大学院デザイン専攻者	全国	○	<p>パソコン、パソコン用プロジェクタ、インターネット通信環境、レーザーポインタ(対面の場合)</p> <p>参考資料: 初学者向け筆者レポートとして、島原万丈、富田興二ほか共著(2015)「Sensuous City[官能都市]ー身体で経験する都市: センシユアス・シティ・ランキング」(9. 都市政策の立脚点は”アクティビティ”である) ((LIFULL HOME'S総研HP <a href="https://www.homes.co.jp/souken/report/201509/">https://www.homes.co.jp/souken/report/201509/</a>) からダウンロード可)</p>